

- ① … 2024年度、第1回評議員会・理事会開催 「SAGA2024国スポ」速報
- ② … 祝、初優勝！昌平高校  
「令和6年度 全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会」
- ③ … 祝、西武台新座中学校～全国3位に輝く。  
「令和6年度 全国中学校体育大会 第55回全国中学校サッカー大会」
- ④ … 祝、戸塚FCジュニア初出場・初優勝  
「JFAバーモントカップ 第34回全日本U-12フットサル選手権大会」
- ⑤ … 関東ブロック大会を振り返る～3カテゴリーとも本大会へ出場～
- ⑥ … 審判委員会より ユース審判活動報告 大会記録●県内大会 1種・自治体・3種中体連  
3種クラブ・4種・女子・フットサル
- ⑦ … 大会記録●県内大会 1種社会人・自治体・2種高体連
- ⑧ … 大会記録●県外大会 クラブ・3種中体連
- ⑨ … 大会記録●県外大会 クラブ・女子・シニア
- ⑩ … 大会記録●県外大会 フットサル インフォメーション 編集後記

●発行/(公財)埼玉県サッカー協会 〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和1-21-18 シャトー雁ヶ音204 Tel 048-834-2002・Fax 048-834-2004 <http://www.saitamafa.or.jp/>

## 2024年度、第1回評議員会・理事会開催

6月15日、2024年度最初の評議員会及び理事会が開催されました。新任を含む評議員会では理事選出が行われ、続く理事会において、理事互選により、鈴木茂氏が3期目の会長に選任されました。以下、理事及び評議員名簿です。

会長 鈴木 茂  
副会長 岡田 泉 渡辺 典子 上條 岳  
専務理事 柏 悦郎  
理事 池田 一義 石尾 正徳 ※ 田中龍太郎  
〃 木村 滋 ※ 松澤 明美 鈴木 豊

理事 関 純 薄井澄誉子 ※ 植松 孝博  
〃 二見 元 谷地田昌史 大山 武士  
〃 池田 浩美 ※ 榎村 憲二 早川 祐司 ※  
〃 瀬尾工三子 坂田 修一 ※ 西澤 誠 ※  
〃 佐藤 秀宣 飯野 明  
監事 栗原 靖治 船崎 久壽  
評議員 野間 薫 大倉 浩 小林 利成  
〃 畑中 隆一 難波 綾子 岡本 武行  
〃 遠藤 圭介 山下 誠二 ※ 柳田 美幸 ※  
※は新任



2024・2025年度 公益財団法人埼玉県サッカー協会 理事・評議員

## 「SAGA2024 国スポ」速報

### 成年女子 3位

1回戦 沖縄県 0-5 埼玉県  
準々決勝 愛媛県 0-0 埼玉県 (4PK5)  
準決勝 広島県 1-1 埼玉県 (3PK2)  
3位決定戦 埼玉県 0-0 大阪府 (4PK2)

※優勝は広島県

### 少年男子 5位

1回戦 埼玉県 2-0 青森県  
2回戦 埼玉県 1-1 北海道 (5PK4)  
準々決勝 広島県 1-1 埼玉県 (3PK1)

※優勝は広島県

### 少年女子

1回戦 福井県 1-1 埼玉県 (5PK3)

※優勝は静岡県



# 祝、初優勝！昌平高校

## 「令和6年度 全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会」

県立児玉高校の優勝以来、県勢51年振りの快挙を成し遂げたのは昌平高校でした。指揮を執ったのは、元日本代表FWの玉田圭司氏です。玉田監督に、鈴木豊・県高体連サッカー専門部委員長（市立浦和南高校）が話を伺いました。

（9月25日・昌平高校にて取材）

### 玉田圭司氏

1980年4月11日生まれ。千葉県浦安市出身。FW。日本代表として72試合に出場し、16得点。2006年、2010年のFIFAワールドカップに出場。

習志野高校～柏レイソル～名古屋グランパス～セレッソ大阪～名古屋グランパス～V・ファーレン長崎。J1・J2 通算530試合に出場し、133得点。

2024年から昌平高校サッカー一部監督。

### 「成長」があつての優勝

**鈴木** このたびは、優勝おめでとうございます。

**玉田** ありがとうございます。

**鈴木** 改めて、振り返っていただけますか。

**玉田** そもそも、ここまで練習してきたこと、今も取り組んでいることは、高校総体で優勝するためだけにやってきたものではありません。もちろんプレミアリーグでの優勝でも、高校選手権大会で優勝したいためだけでもないのです。私としては、日々、選手の成長とスタッフの成長を願っているだけのことです。今回の優勝も各自の「成長」があつてのことだと思っていますし、これまでの積み重ねがあつて手に入れたものだと思っています。プロ選手としての経験を経て、積み重ね、成長が大事だと思い、指導してきました。今言えることは、ここまでやってきたことは正解だったかなということでしょうか。

**鈴木** 力を持っている選手が揃っている中、さらに「成長」させた結果ということですね。

**玉田** 確かに昨年、コーチとして招聘された時点で、改めて個々の選手を見て「力がある」「もっと成長できる見込みがある」と思っていました。今年、監督になるにあたって、その手ごたえがあつたので引き受けさせてもらいました。

選手たちは、高校総体中も、また大会が終わった今も成長し続けています。確かに高校総体では厳しい試合を経験したことで大きく成長してくれて、それが自信にもなったと思います。私自身、彼らの吸収力のすごさに驚いているところです。

**鈴木** 具体的にはどんなところでしょうか。

**玉田** 一つひとつのプレーの精度が変わってきました。これまでも日々のトレーニングの中で口酸っぱく「トラップしたボールの置き所」や、それぞれの場面での「ポジショニング」について注意してきました。その違和感が少なくなってきました。

大人だったら、「できる・できない」を簡単に決めつけて、判断せずに「できない」と言ってしまうような場面があつたりするじゃないですか。しかし、彼らはあれこれ言わずに、まずやってみてくれます。できなければ「できません」と言ってきますし、できたら自信を持って「次は？」と要求してくる——素直なんだと。

### 「チャレンジしよう」

**鈴木** 確かに、昌平の選手たちは「素直」だと思いますね。これま

で昌平の選手との関わりは、県トレセンの中だけではありましたが、今、広島で活躍している松本泰志選手は素直でした。技術が高いと、どうしても「オレがオレが」と表に出てしまうものですが、彼には無かったですね。それが彼だけではなかったものですから、チームとして見ても当時から昌平はスキが無かったように思います。

玉田さんは、どのようにチームマネジメントを行っているのでしょうか。Aチームだけでも30人程度いますよね。

**玉田** そうですね、30人程度ですね。就任して、最初に行ったのは、一人ひとりのキャラクターを見ることです。これには時間がかかりました。こちらの言うことに対して、どういう表情をして聞いているのか。その表情を見て、本当に理解できたのかを判断していきました。そう、「彼はもうちょっとかな」「彼にはこういう言い方のほうが伝わるかな」……そういうことを考えながら。

現役時代から、人を観察するのが好きでした。例えば、チームメイトを見ていて、監督の言うことを理解しているのかな、どうかかなというのを考えていました。わかっているか、いないかは、プレーにも出ます。ですから、昌平でも「彼はわかっていないな」と思ったら起用しませんし、もっと言えば、日々の中で少しでも成長していないと起用していません。

先発メンバーを固定していないからでしょうか。選手たちは自ら「もっとやらない」という気持ちになってくれているようです。どうやっても試合には11人しか出ることではできませんし、誰もがその11人の中に入りたいたいのですから。

そして、声かけとしては「チャレンジしよう」と言っています。個人的にミスを恐れる選手は嫌いです。彼らには、100%でプレーして、その上で何がミスだったのかをわかる選手でいてほしいのです。もちろん、そのミスの理由を理解して自分なりに改善した上で、次のプレーで成功したとき「何が違って成功したのか」を認識してほしいものです。それが成功体験であり、そういう成功体験をいくつも経験することでプレーに幅が出るのだと思っています。

### ターニングポイントは初戦

**鈴木** なるほど。私は今、一年生を担当していますが、彼らのプレーを見てると、当然ミスもあれば成功もあります。そんな中で、例え勝った試合の後でも内容によっては「今日の試合はつまらなかった」と伝えます。

チーム内でも、上のカテゴリーに昇格すると「ミスをしたくない」という気持ちになりますね。彼らが考えるのは「ミスをしないためにどうするのか」になっています。ミスをして負けながら選手たちは成長していくものなのですが、それをまだまだ理解してもらえていません。しかし、昌平の選手たちは勝ちながら成長しているのですから、すごいですね。

さて、県大会、本大会でターニングポイントになった試合、場面があつたならば教えていただけますか。

**玉田** それは、県予選初戦の西武文理との試合です。私としては県内の高校チームとの初の対戦で、開始すぐにPKで失点しまいました。

事前にスタッフからは「毎週緊張するプレミアリーグを戦っているからか、県予選に挑むと気が緩んでしまう」というアドバイスを受けていましたが、あの場面で「これか」と。

逆にこのPKがあつて、気持ちが引き締まったと思います。次戦からは最初からしっかり取り組み、決勝まで余裕を持って戦うことができました。



玉田圭司監督

ただ、決勝戦の最後もPKの失点で終わったんですね。試合後、選手たちには「これは何かのメッセージだ」と伝えました。当然、本大会は県予選とは全く違うものです。実際「簡単には勝たせてもらえない」というメッセージだったと思っています。

本大会もやはり初戦の尽誠学園(香川県)がポイントだったと思います。初戦ですので、相手チームのスкауティングは十分にできないままでした。しかし、周りからは「昌平、圧倒的有利」と言われ……いいゲームはできませんでしたね。先制したのにミスから追いつかれてしまいました。それでも勝ち越しができてPK戦には行かず、勝ち切れたことはホッとしつつも、自信になりました。やはり全国大会に出てくるチームですから、何が起るかわかりませんからね。

そうそう、選手たちには「サッカーを楽しめ」と伝えていきます。せっかく高校までサッカーをやってきたのです。彼らも楽しいからサッカーを続けているわけです。それで人工芝のグラウンドがあって、多くのスタッフもいて、仲間がいて……もっと楽しまなきゃいけないと思います。その思いが成長につながりますから。

**鈴木** 話は逸れますが、習志野高校時代の本田先生(裕一郎氏・現、国士舘高校テクニカルアドバイザー)からも「楽しめ」と言われましたか?

**玉田** ……言われてないですね。自由は与えてもらいましたが、本田先生は「これをしろ」はなかったですね。「サッカーは表現であり、自由だ」と。

私たちの時代、千葉県の高校サッカーは市立船橋の一強時代でした。そんな時代だったから、あまり勝負にはこだわらなかったんですね。振り返ると、そこから得られるものは多かったような気がします。本田先生からは「勝つためだけにサッカーをするな」とは言われませんでしたね。

**鈴木** なるほど。だから、個人技、それも細かなコントロール一つにもこだわらるんですね。

すみません、高校総体の話に戻します。1回戦は引いてきた相手だったので、やりにくかったというのはありませんでしたか。

**玉田** 初戦の硬さというのはあったと思います。逆に準決勝の桐光学園戦では、前半で0-2とリードされて折り返しました。ラインを引いてきた相手に2失点。この後、火がつかましたね。私もハーフタイムには結構言いました。「どうして最初からやれなかったのか?」と。

ただ桐光学園に勝ったことで、優勝が見えてきました。私としても「優勝させてあげよう」と改めて決意した試合になりましたね。

## 「勝ちたい気持ち強い方が勝つ」

**鈴木** そうだったんですね。あと神村学園との決勝戦ですが、1-1で迎えた後半29分にロングスローからリードを許した瞬間、「やられたかな」と思いました。失礼ですが、あの時点でも「まだいける」と思っていましたか。

**玉田** 「いける」と思いましたね。

試合前、「勝ちたい気持ち強い方が勝つ」と言って、ピッチに送り出しました。また、失点、逆転されてもベンチから「お前が点を取らないと勝てないんだ」など、一人ひとりに積極的な声がけをしました。「いける」と思ったのは、彼らが下を向かなかったからですね。

負けている中でも彼らから「成長」を感じました。リードされても選手たちは楽しんでいる、点を取れると思っているんだなと感じさせてくれました。本当に、メンタルの成長につながりました。

**鈴木** 確かに、そこからの同点、逆転は見事でした。

**玉田** ありがとうございます。ただ、あの試合で終わりではなく、すでにプレミアリーグを戦っていますし、これから高校選手権の県予選も始まります。

彼らを見ていて思うんですよ。いい環境でトレーニングできて、試合もプレミアリーグですよ。うらやましい限りです。私の時代は、天然芝なんて大会の準決勝、決勝にならないと使えませんでしたし、やっと(関東)スーパーリーグができたころでしたから。ですから、今の選手たちはサッカーに対して私たちの頃よりも、もっとやりがい

があると思うんですよ。そういうことを「感じろよ」と伝えたいですね。ただ、彼らは今しか知らないわけで。

**鈴木** そうですよ(苦笑)。

先程の質問にかぶるのですが、そのAチームだけでなく、昌平高校サッカー部「全体」を観ること、マネジメントすることで意識していることはありますか。

**玉田** 選手全員の名前を覚えるのは難しいですね(苦笑)。各カテゴリーでそれぞれコーチに任せていますが、できるだけ試合、トレーニングを観るようにしています。

そう、気になった選手がいたら、コーチに名前を聞いてから声をかけるようにしています。名前は大事ですね。私が名前を呼んで声をかけているじゃないですか。そうすると、他の選手も「声をかけられたい」と思うようになってくれるんです。よく見ていると「オレも気に留めてもらいたい!」という行動をするようになるんですよ、プレーも含めて。そういうのって、好きなんですよ(笑)。

あと時間があれば、LAVIDAのトレーニングも見ます。面白い選手はいますよ。いつも「この子たちがこの先どうなるんだろう」と思いつながりながら見ている。

**鈴木** LAVIDAも含めた6年というスパンがあって、そこで育てる、見守っていくということができているんですね。公立高校だと「今年はどうな選手が来てくれるんだろう」の連続です。毎年毎年その中で育てて、なんとか挑んでいるところですよ。

さて、玉田監督の指導の「根本」に触れたような気がしています。繰り返しになるかもしれませんが、今後も含めて、昌平高校をどのようにしていきたいとお考えですか。

**玉田** 将来、私はプロチームの監督をしたいと思っています。多分、指導者としてのスタンスはプロでもアマチュアでも変わらないでしょう。今も、昌平の選手たちのことを「プロ」だと思って指導しています。ただ、プロと彼らで少し違うのは成長の度合い、でしょうか。昌平の選手たちにはまだまだ可能性を感じています。

しかし、彼らをプロ選手にするために指導しているのではありません。プロ選手になりたいのであれば、そういう姿勢で私のところに話を聞いてくるとし、アドバイスを求めてくると思っています。ですから、私から勧めることはありません。それにプロ選手になれるのは、このチームの中でも数%のこと。私としては、彼らが「人間」として本当に成長するだろうこの3年間で、サッカーを通じたアドバイスを受けて成長してくれればいいんです。私からのアドバイスは、それこそ社会人になってから思い出してあげればいいと思っています。

**鈴木** 同感ですね。

**玉田** ここにいるのはタイミングが合ったからでした。個人的には早く「監督」をやりたいと思っていたからです。すでに44歳。決して若いほうではありません。ですから、まずは監督という立場になって、監督を経験することで視野を広げたいと考えていました。選手のことでもスタッフのことでもそうですが、自分自身の成長も考えてのことです。

## 「それが私からするとイヤですね」(笑)

**鈴木** 玉田監督を見ていて思うことは、「教える」という経験の有無は関係ないかなと。ここまでのお話を含めて、玉田さんの感覚には共感しますが、残念ながら私にはわかりません(苦笑)。以前、A級ライセンスを取りに行ったとき、元プロ選手の人たちの指導を見て「見ているところが違うな」と感じましたが、興味を持ったことを思い出します。

「観察」なんですね。クラブでも、代表チームでも指導者を観察して、何を求められているのかを理解しなければならぬですね。そういう面は興味があります。自分も、もっと成長したいですね。



鈴木 豊委員長

さて、これで最後にさせていただきます。埼玉県の高校サッカーの印象はいかがですか。

**玉田** 簡単には言えませんが、全体的なレベルは高いと思います。実際、これからの高校選手権の県予選も昌平だからといって、決勝に進めるかどうかはわかりません。どこのチームが出てきてもおかしくないくらい拮抗していると思います。試合を見ていると、「面白い」と思う選手もいますね。

ただやはり「チーム」として見てしまいますね。チームとしてのキャラクター、システム……見ていると、埼玉は本当にバラエティ豊かです。それぞれに特色があると言っていいと思います。それが私からするとイヤですね(笑)。

**鈴木** そうですか(笑)。我々は「昌平をいかに停めるか」、それだけを考えて選手権予選に挑むと思います。

**玉田** 楽しみですね。選手たちもやりがいがあるはずですよ。「勝って当たり前」と思われる中で、しっかり勝ちたい。それがまた成長につながります。付け加えれば、試合中に考えさせられる試合になると助かりますね。

**鈴木** 今年は本当に隙がなさそうですね。もっと隙を見せてほしいです(笑)。こちらとしては「どうやって隙を作るか」を考えながら試合を戦うと思います。チームとしては、去年、決勝で負けているので、今年はぜひ。

**玉田** よろしくをお願いします。

**鈴木** こちらこそよろしくをお願いします。今日はありがとうございました。

藤島崇之氏より

玉田監督が就任してからは、確実に攻撃のバリエーションが増えました。私とは見る視点の違いがあると思いますが、ゴールに向けての最短距離を考えてコーチングしているのを見受けられます。

確かに昨年度と比較すると、戦力的にもワイドアタッカーが出てきてくれて、攻撃の軸が増えました。ですから、プレミアリーグでも得点数はトップレベルです。実力が拮抗する厳しいリーグの中でも、その攻撃のバリエーションは体現できているというところが大きな成長だと思っています。見ていると「型にはめよう」としているのではなく、選手たちが「判断」できる材料を提示してくれていますね。

これまでも大きなトーナメントでは勝ちきれずに途中で終わっていましたが、今回の高校総体では苦しい試合もある中で「勝負強さ」が出てきたと思います。優勝という最高の結果で終わってくれたことを感謝しています。

### 令和6年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会

7月27日～8月3日 Jヴィレッジスタジアム他

1回戦	昌平 2 - 1 尽誠学園
2回戦	帝京安積 0 - 4 昌平
3回戦	昌平 2 - 0 福岡大若葉
準々決勝	昌平 2 - 2 桐光学園 (4PK2)
準決勝	帝京長岡 1 - 2 昌平
決勝	神村学園 2 - 3 昌平

※昌平は初優勝



決勝 昌平 vs 神村学園



優勝 昌平高校



2回戦 昌平 vs 帝京安積



準決勝 昌平 vs 帝京長岡



1回戦 昌平 vs 尽誠学園

# 祝、西武台新座中学校～全国3位に輝く。 「令和6年度 全国中学校体育大会 第55回全国中学校サッカー大会」

創部5年にして、西武台新座中学校が今大会で3位となりました。その過程を伺いながら、県内の中体連の現状とこれからを考えます。  
(司会・構成／荒川裕治【広報・技術・女子委員】)

## ●出席者

山崎 健吾氏／西武台新座中学校サッカー一部顧問  
谷地田昌史氏／県中体連サッカー専門部委員長【さいたま市立大原中学校】  
白倉 裕三氏／県中体連サッカー専門部技術部長【川口市立青木中学校】

—まずは山崎先生、お疲れさまでした。谷地田さん、白倉さんから一言いただこうと思います。お願いします。

**谷地田** 今年は埼玉で関東大会を開催しました。8年前の前は県代表が2校とも関東大会で敗退したこともあり、西武台新座中には全国大会に出場していただき、ありがとうございました。感謝しています。また、全国3位という結果についても大変うれしく思います。

**白倉** おめでとうございます。素晴らしい結果だと思います。県大会、関東大会と見続けてきましたが、アグレッシブに戦うというチームコンセプト体現してくれたと思います。埼玉県代表に相応しいチームでした。ありがとうございました。

**山崎** ありがとうございます。

—お二人とも、ありがとうございます。それで、山崎さんの自己紹介をお願いしますか。

## エンブレムに誇りを



山崎 健吾氏

**山崎** はい。私はもともと飯能の出身で、ジュニアユースは柏レイソル青梅（現、アーゼット'86 東京青梅）を経て、西武台に入学しました。高3時に、沖縄県開催の高校総体では3位、高校選手権ではベスト8でした。同級生には清水慎太郎（元大宮アルディージャ。現フロンティア・クラウンFC【カンボジア】）がいます。その後、教員を目指して埼玉大学に入り、菊原先生（伸郎氏・准教授）の下で学びました。

選手としては、大学の最終戦でケガをしてしまったことから指導者の道に進みました。新潟の開志学園JSCで高校生を指導していました。そこでは素晴らしい指導者から多くのことを学び、今の指導に生かされています。

6年前、守屋先生（保氏）からご縁をいただき、母校である西武台新座中学校・西武台高等学校に赴任し、西武台新座中学校サッカー部の監督に着任しました。

—中学とはいえ「西武台」です。立ち上げからプレッシャーがあったのではないのでしょうか。

**山崎** 確かに「西武台高校」として築いたものを傷つけることはできません。ですから、地域の優れた選手をただ引っ張ってくるということではなく、しっかりと西武台のエンブレムに誇りを持った選手を育成し、サッカーだけでなく生活、勉強においてもしっかり指導していくことを根本にしています。

また、サッカーが優秀でも入試の免除などはありません。西武台に入りたいと思ってもらえるのであれば、しっかり勉強した上で受験してくださいとお話しています。今、月1回の部活体験会を行っていますが、今の中三の選手たちはチームとしては実績があまりない中で、練習体験会を通して「先生とサッカーをしたい」と言って入学し

てくれて、一生懸命にやってくれた結果が今回の成績でした。

**白倉** 卒業生としてはうれしいですね。

振り返ると私は「ザ・中体連」の選手でした。西武台高校でもそのまま気合と根性がプレーのベースで、まだ「水は飲むな」の指導

をされていた時代です。それでも私たちの代はたまたま選手が揃い、かつ守屋先生に愛情深く育てていただき、全国高校総体（平成7年鳥取県）では2位という結果を出すことができました。

あの頃、守屋先生は30歳くらいだったと思いますが、メチャクチャ動けていましたし、上手かったですね。私たちは「守屋さんのため」と「西武台」というブランドをもっと多くの人たちに知らせたいという思いで、一生懸命やっていました。

当時から守屋先生は人間教育に力を入れていて、試験の成績が悪ければメンバーから外されるのは当たり前でした。求められたのは「考えて、学んで、実行する」でした。ここでの3年間が、今の教員人生の血となり、肉となっていることは間違いありません。

**山崎** 私は「指導者は教育者であり、人格者でないといけない」と日々考えており、守屋先生はお手本のような存在です。選手に寄り添って指導する姿は昔から変わりませんし、職場の上司になってからも日々教を受けています。

今回の結果で、一つ恩返しできたかなと思っているところです。  
—なるほど。さて実際、山崎さんはどのような指導をされてきたのでしょうか。

## 絶対全国へ行く

**山崎** 今回の3年生は1年生のときから周囲の皆さんに「今までよりも質が高い」と言っていた代です。どう育てていったかという、入学時から3年後を見据えて「みんなは全国（全中）に行く代なんだよ」と言い続けてきました。

ですから、トレーニングの中で「それが全国へ行く選手のプレーなのか?」「それが全国へ行く選手の行動なのか?」と投げかけてきました。

振り返るとU-13の大会でLAVIDAと対戦しましたが、結果は0-7。大敗ではありましたが、要所要所ではプレーできていたので、ネガティブには捉えませんでした。2年生のときに初めて関東大会に出場し（県では準優勝）、全国大会に向けての難しさや悔しさを感じることができました。

でも、次の新人戦は予選で負けてしまいまして、一度チームはバラバラになってしまいました。「自分たちの代で全国へ」というのが、プレッシャーになったようです。でもそこから、選手たちの中で「絶対全国へ行く」という気持ちに切り替えてくれました。近畿、静岡、関東近県と遠征を繰り返す中で、覚悟と責任が植え付けられた気がします。

—目標を設定して、そこに向かうためには何をしなければならぬのかを選手たちに考えさせたんですね。

**山崎** 県大会、さらには全中でのポイントはどこだったのでしょうか。木崎

中は昨年新人戦の優勝チームである聖望学園を破って勝ち上がってきたいいチームでした。その相手にしっかりとファイトしてくれて、前半5分で退場者を出してしまったものの、3-1で勝てたことは大きな自信になりましたし、改めて選手の誰もから「覚悟」を見て取ることができた試合だったと思います。

実は私、高校3年の高校総体、初戦の前半15分に退場しました(苦笑)。ですから、退場した彼に対しては「あー、自分と同じことをしているなあ」と思ったくらいで、こちらとしては焦りなどありませんでした。とはいえ、大会前から木崎中の前評判は高く「しっかりとゲームを組み立ててくる」「もしかしたら聖望学園にも勝てるのではないか」という声も耳にしていました。実際に、聖望学園に勝ったのは、原田先生(知樹氏)のいい指導があったからだと思います。

試合前に選手たちには「ここで勝つことができれば、次の(可能性の高い)川口西中にも勝てるはずだ。ここは鬼門だぞ」と送り出したのですが、本当に鬼門になってしまいました。ここを勝ち抜けてよかったです。

**白倉** 県大会はもちろん、関東大会を観てもプレー強度が違いました。球際、トラジション(切り替え)などは他のチームに負けていませんでしたし、むしろ速かったと思います。関東大会では猛暑にも関わらず「全国に出場するにはここまで求められているんだ」ということを見せてくれました。公立中でも学ぶべきところだったと思いますし、改めて、この埼玉の中でも西武台新座中はプレーの質も、気持ちの部分でも抜けていた存在でしたね。

また、木崎中は「公立でもここまでやれる」というのを見せてくれたと思います。

**山崎** 全国大会でポイントとなったのは、浜松開誠館中との準々決勝です。関東大会は猛暑が続いたものですから、ベストメンバーを組むことができませんでしたが、全国大会(石川県)になると熱さも緩和されて選手たちのコンディションも整ってきました。なんとかベスト8まで進むことができました。

そこで彼らに伝えたのは、「ここまで来たことは素晴らしいことだけれど、ベスト8で終わるとベスト4で終わるとでは、全く見えるものが違う。全国大会でベスト4は一生誇れる結果だ。相手は強いけれど、粘ってがんばってこい」と。

試合は激しいタックルなどがあり、実際厳しいものとなりました。それでもなんとか最後の最後、アディショナルタイム(60+14分)に得点して、1-0で勝利できました。粘りに粘ったことで、チームがさらに一つになったと思える試合でしたね。

## また3年後

**谷地田** 大会期間中、「浜松開誠館はいい」という声は多く、本当に強いチームでした。その浜松開誠館を相手に、西武台新座中はGKが身体を張って、何本もシュートを止めていました。DFもよくしのいでいました。

お互い連戦で疲労がたまっている状況でしたが、西武台の「気持ち」が上回っていたと思います。10番の林良樹選手がドリブルで持ち込んでシュート。ポストに当たったこぼれ球を吉田琉星選手が決めてくれました。劇的でしたね。

**山崎** ありがとうございます。素晴らしい経験ができたと思います。結果的に準決勝では青森山田に0-7と大敗してしまいましたが、やはり準決勝まで残ったことはすごいことだと思います。

今年に入って、同学年のチームにここまでやられることはありませんでしたので、試合後の選手たちからは「悔しい」という声が聞かれました。ベスト4に入っただけで終わらなかつたことで、慢

心することなく、高円宮杯県予選へ入ることができました。「成長しているなあ」と思いました。

もちろん、準決勝が終わった後には「これからの3年間でこの差をどれだけ埋められるかだ」と言っておきました。彼らは3年後に高校総体、高校選手権で青森山田と対戦するでしょうから。

**白倉** そういう言葉を選びながら、選手たちに話をしてみたいものです。

**谷地田** 「また3年後」というのは、中高一貫校ならではの言葉、メッセージだと思います。改めて、彼らはいい環境でサッカーをすることができているなと思ったところです。

もちろん、西武台高校には他の中体連やクラブの選手たちも入ってきます。その上で今回のチームの選手も競争するわけですよね。そういうことも含めて、西武台の活躍を楽しみにしたいと思います。

山崎さんは、ゆとりを持って指導しているように見受けられます。西武台の「人間教育」が指導につながっていますね。いろいろな経験があって、今があると思いますが、改めてすごい指導者だと思います。

**白倉** 同窓生として思うことですが、山崎先生のコーチングは私たちの見本になると思っています。選手たちとの距離感、信頼関係の構築……私も含めて学ぶべきところが多いなと。サッカーの原理原則を理解した指導者がもっと多く出てくることが求められますね。それが埼玉のレベルアップにつながると思います。

**山崎** ありがとうございます。高円宮杯県予選は選手たちに「しっかりと勝とう」と話していました。というのは、今回3位になった私たちとしては「中体連の価値」を下げたくなかったのです。これは選手も一緒に、クラブと対戦してもしっかりと勝つことで証明しようと思って臨みました(県予選は突破して関東大会へ出場決定)。

我々は私学の新設校です。当初は、公立の先生の皆さんからはポジティブに受け入れていただけないだろうと思っていました。しかし、気さくに声掛けをしていただき、アドバイスもいただき……すんなりと受け入れていただきました。今回の結果は、おこがましいかもしれませんが、県内の多くの中体連の先生方と一緒に選手を育てていただいたからこそと思っています。ですから、本当に感謝したいと思います。大会運営だけでなく、試合の応援もしていただきました。だからこそ「西武台をサポートしてよかった」と思ってもらえるよう努力してきました。

この夏は、たくさんの応援メッセージをいただきました。ありがとうございました。皆さんに支えられて、ここまで来ました。今回の経験を少しでも還元できればと思っています。埼玉のレベルが今以上に高くなるよう研鑽してまいります。これからもよろしくお願いたします。

——まとめていただき、ありがとうございました。これからの西武台新座中の活躍もですが、県中体連としてのレベルアップも期待しています。本日はありがとうございました。



白倉裕三氏



谷地田昌史氏



# 祝、戸塚FCジュニア初出場・初優勝

## 「JFAバーモントカップ 第34回全日本U-12フットサル選手権大会」

昨年もヴィオレータFCが初出場・初優勝を遂げましたが、今年は戸塚FCジュニアがやってくれました。「JFAバーモントカップ 第34回全日本U-12フットサル選手権大会」ではこれで埼玉勢が2連覇。喜びの声を鈴木基悦コーチに伺いました。



鈴木基悦コーチ

相手の出方を見ている間に失点してしまいました。今大会はよく先制されていましたが、子どもたちの中では「まだ時間があるから修正できる」「同点、さらには逆転できる」という自信があったようです。選手たちはよくやってくれました。

### もともとフットサルから

今回の大会は初出場で初優勝なのですが、実は初参加でもありません。彼らが5年生だった昨年度も予選にエントリーしたのですが、他の大会と重なってしまって残念ながらキャンセルした経緯がありました。しかし、チームとしては以前からバーモントカップ優勝を目指していました。サッカーよりもフットサルを先に始めた子どもたちが多く、大会への思い入れも強かったからです。

今の6年生たちの多くは戸塚FCに入る以前に、幼稚園の頃から「RAD FUTSAL PROJECT」のスクールに入っていました。このチームには私の息子（鈴木優剛選手）がいますが、彼が年少のときに「RAD」に入り、友達たちも始めたという流れです。その後で戸塚FCに入りました。今回、「RAD」代表の鳥丸太作さんにアドバイザーとしてベンチに入ってもらいましたが、鳥丸さんはFリーグ（フットサルのプロリーグ）の「Y.S.C.C. 横浜」で監督を務めた経験があり、現在も「フウガドールすみだ」でコーチをしています。フットサルから始めている彼らは、鳥丸さんの指導の下、ボールを大事にしながらいち人もボールも動くサッカーを目指しています。鳥丸さんと私が共通認識を持ちながら、指導しているところです。

私自身は、最初は「保護者」でしたが、誘われてコーチになりました。プレーヤーとしては川口でサッカーを始め、柏レイソルのジュニアユース、ユースでプレーしていました。大学では続けませんでした。卒業後にFCフェスタ（現、埼玉 UNITED FC FESTA）でのコーチを経て、今は一般企業に勤めながらチームのお手伝いをしています。

個人的には勝負にこだわることも大事にしていますが、その子の将来を見据えた指導をしていきたいと思っています。特にトレーニング中、「そのプレーに判断はあるのか?」を問いながら指導しています。やはり「判断」が大事だと思うからです。

確かに4種年代では、蹴れば失点のリス

スクを減らすことができますし、攻撃面ではこぼれ球からチャンスになることもあります。「バーモントカップ」に参加してわかりましたが、蹴ってくるチームは強いです。しかし、あまり判断がない中で前線に蹴り込んだボールが偶発的にゴールになってしまうシーンを多く目にし、「それでは……」と誤ってしまいました。

最近、よく江南南の松本先生（暢祐氏）と話をしますが、その話の中で教え子が大学サッカーで活躍している話題が出てきてうらやましいと感じています。それも関東大学リーグでプレーしている教え子が多いんですね。私も子どもたちがサッカーを、フットサルを続けてくれることを願っています。今はそのベースを作っているところです。

最近、よく江南南の松本先生（暢祐氏）と話をしますが、その話の中で教え子が大学サッカーで活躍している話題が出てきてうらやましいと感じています。それも関東大学リーグでプレーしている教え子が多いんですね。私も子どもたちがサッカーを、フットサルを続けてくれることを願っています。今はそのベースを作っているところです。

最近、よく江南南の松本先生（暢祐氏）と話をしますが、その話の中で教え子が大学サッカーで活躍している話題が出てきてうらやましいと感じています。それも関東大学リーグでプレーしている教え子が多いんですね。私も子どもたちがサッカーを、フットサルを続けてくれることを願っています。今はそのベースを作っているところです。

### フットサル「も」

今も、「RAD」のスクールに参加した後、戸塚の練習に参加するメンバーもいます。フットサル、サッカー、どちらがということはないのですが、彼らには3種年代に行ってもフットサルは続けてほしいと願っています。というのは、ボールを触る回数はフットサルの方が圧倒的に多いですし、コートが狭い分、相手からの寄せも速いわけですから判断の速さも求められます。そのためにはより良い準備もしなければいけません。サッカーよりも原理原則——数的有利だったり質的有利だったりのがはっきり出てきます。だからサッカーでも生きると思うんです。

日本だとサッカーで上手いかなかった選手がフットサルをやる、というイメージが強いですが、ヨーロッパではそんなことはなく同等です。日本でもサッカーとフットサルを同じ熱量で感じてほしいですね。うちのコーチたちからも「戸塚が優勝したことでフットサルの見方が変わった」という声を聞きました。うれしいことです。

最後に、この優勝で勘違いせず、この先にある大会、試合に臨んでいきたいと思っています。立ち上げ当初から高い評価をいただけてきた学年ではありますが、実際のところ結果は出ていませんでした。この優勝をきっかけに飛躍できればと思っています。引き続きよろしくお願いいたします。



# 関東ブロック大会を振り返る ～3カテゴリーとも本大会へ出場～

技術委員会 強化指導部会長 荻野清明【県立浦和東高校】

「第78回国民スポーツ大会 SAGA2024」のサッカー競技が9月21日に開幕します。今年から「国体」ではなく「国スポ」と名称が変わりました。その記念すべき大会で、3カテゴリーが揃って出場する埼玉県勢の活躍が期待されます。技術委員会の荻野清明・強化指導部会長に話を聞きました。（9月4日・浦和東高校にて取材）

## 力関係は紙一重

今年は、少年女子が加わり、成年男子と成年女子が隔年開催となって3年目となります。一昨年は少年男子が本大会への出場が叶わず、さらに3カテゴリーとも関東ブロック大会で敗退と厳しい結果に終わりました。今回、新しいレギュレーションになって初めて3カテゴリーすべてが本大会出場できたことをまずは喜びたいと思います。

ただ振り返る前に、関東ブロック大会の現状について説明させてください。

出場枠は少年男子が4、少年女子は3、そして成年女子においては2つしかないというレギュレーションの下、関東各都県ともレベルが高く、熾烈です。常に紙一重と言っていいでしょう。昨年の少年男子を見ても、我々が圧倒的に弱かったかというそうではなく、群馬県を相手にPK負けでした。今年はスタッフ全員でセットプレー、PKのトレーニングも積んできました。

試合時間も大きな要因です。通常どのカテゴリーも70分で行われますが、今年の少年女子は猛暑の影響を受けて、本来よりも短い、60分での関東ブロック大会となりました。また少年男子はプレミアリーグ、プリンスリーグ等で90分ゲームを行っているにもかかわらず、70分の試合では、両チームともなかなか力を発揮することが難しく、拮抗している状況でもあります。

もう一つ、ほぼ単独チームで出場する県は4月から関東ブロック大会までの活動そのものが「強化」です。しかし、複数のチームから選手を選ぶ都県は各チームで充実したリーグ戦を戦っている中で「トレセン」に参加していることもあり、時間は大きく制限されています。埼玉県は後者で、素材が多く育っているため、ある意味贅沢な悩みではありますが、確実にチーム強化としては違いが出てきています。

## こだわりたいフィロソフィー

埼玉県独自の課題もあります。一昨年から発動した「SFA フットボールフィロソフィー」の浸透です。現在U16県トレセンとして活動し、今回の本大会に出場するプレーヤーたちの年代は、U14で「SFA フットボールフィロソフィー」がスタートし、U15では受験もありましたから実質半年の活動のみでした。その中での積み上げは限られていると言っていいでしょう。ですが、現在はU12からの積み上げによって、「SFA フットボールフィロソフィー」に掲げている

### 【プレイスタイル】

攻守における洗練されたテクニックと、強度の高いアグレッシブなプレーをベースに、組織化された、論理的なフットボールスタイルで勝利することを伝統としていく

### 【プレーイングアイデンティティ】

スペースを作り出し、数的優位と個の能力を生かしてボールを支配し、得点する。



荻野清明氏

ゴールに向かうために、スペースと相手をコントロールしてボールを奪い、ゴールを守るを目指しているところです。

## 本大会に向けて

さて、各種別の状況です。まずは【成年女子】です。今年から東洋大学女子サッカー部が群馬から同大学の朝霞キャンパスへ移籍することとなり、単独チームとしての出場をお願いしたところ、気持ちよく全面的に協力していただけることになりました。石津遼太郎監督は、大宮アルディージャU-18時代には県トレセンに選ばれ、国体での活躍が期待されていましたが、2006年からの国体のU16化（少年男子の出場選手の年齢制限が18歳以下から16歳以下に引き下げられた）に伴い、国体に出場するチャンスを恵まれなかったという経験を持っています。ですから国体への思い入れは強く、こちらの思いに関しては「わかっています」と答えてくれたほどです。

トレーニングは、我々が見ていても勉強になるほどです。プレーヤーたちは主体的に動き、強度の高いメニューをこなしていました。今の強さ（関東女子大学リーグ首位）は、朝6時30分からのトレーニングがすべてを物語っています。日程的には佐賀から戻ってすぐ、リーグ戦が再開するという厳しい日程ではありますが、その合間を縫ってご協力をいただいています。頭が下がる思いです。

次は【少年女子】です。国スポのカテゴリーに入って3年目。育成面で全国的にも圧倒的な実績を持つ三菱重工浦和レッズレディースユース。ジュニアユースのプレーヤーたちを軸に挑みます。U15のプレーヤーが比較的多いのですが、この年代で「ストレッチ」して強度の高いゲームに参加するということは意味があることだと思っています。ただ、他県を見ると高校の単独チームが多く、早生まれの2年生も入ってパワー、スピードともに違うプレーヤーが揃っています。実際に戦ってみなければわかりませんが、ゲームの中で石塚智之監督を中心としたスタッフの状況判断が勝敗を分けるのではないのでしょうか。能力の高いプレーヤーたちを的確な指示で勝利に導いてほしいと思います。

関東ブロック大会直前に、昨年に続いて大阪遠征を行いました。そこで大阪府に大敗を喫したことで意識が大きく変わったと聞いています。関東ブロック大会ではPK戦での勝利と苦しみましたが、「勝ちたい」という気持ち、意識が強くなった成果だと思います。本大会で目指すは、大阪府との再戦、そして勝利です。

最後に【少年男子】です。関東トレセンリーグに招集したプレーヤーは30名以上。レベルの高い競争が繰り広げられた結果、その中から16人に絞りました。





関東ブロック大会では、少年男子も苦しい時間帯が長かったゲームでした。当初はビッグチャンスがあったものの、次第に押し込まれていきました。それでも千葉県という強豪を相手に「失点しない」ことを目指した適切なコーチングもあった中、結果は0-0からのPK戦での勝利。チームとして目指すものはもっと上でしたが、このゲームにおいては「正解」だったと思います。

上田健爾監督が掲げた目標は「日本一」。本大会では、勝ちながら成長して欲しいものです。

前号の「SFA NEWS」でも紹介してもらいましたが、これまでプレーヤーたちのコンディションの掌握に苦勞していたのをJFA フィジカルフィットネスプロジェクトチーフの菅野 淳さん(U-19日本代表フィジカルコーチ)お招きして勉強会を開催しました。これは大きな刺激になりました。もちろん日本代表レベルのコンディションづくりには及びませんが、プレーヤー一人ひとり異なるコンディションを理解しながらトレーニングを調整することの重要性は根付いたと思います。大きな一歩でした。今大会でも、結果につながればと願っています。

## 国民スポーツ大会 関東ブロック大会 埼玉県代表チーム名簿

■成年女子			■少年男子			■少年女子					
役職	氏名	所属	役職	氏名	所属	役職	氏名	所属			
監督	石津遼太郎	東洋大学体育会サッカー部女子部	監督	上田 健爾	細田学園高等学校	監督	石塚 智之	AzuLente 加須			
No.	位置	氏名	所属	No.	位置	氏名	所属	No.	位置	氏名	所属
1	GK	遠藤 有紗	東洋大学体育会サッカー部女子部	1	GK	岡村 泰志	大宮アルディージャU18	1	GK	熊澤 果歩	浦和レッドダイヤモンズレディースユース
2	DF	田畑 風侑	東洋大学体育会サッカー部女子部	2	DF	熊田 佳斗	大宮アルディージャU15	2	DF	佐藤 百音	大宮アルディージャ VENTUS U18
3	DF	長尾ののか	東洋大学体育会サッカー部女子部	3	MF	伊藤 隆寛	昌平高等学校	3	DF	高久ももか	浦和レッドダイヤモンズレディースユース
5	DF	楠 さやみ	東洋大学体育会サッカー部女子部	4	DF	中澤 凜	大宮アルディージャU18	4	DF	熊谷 香季	浦和レッドダイヤモンズレディースジュニアユース
6	MF	今西 那歩	東洋大学体育会サッカー部女子部	5	DF	田中 義峯	浦和レッドダイヤモンズユース	5	MF	黒鳥レイラ	浦和レッドダイヤモンズレディースユース
7	MF	柳原さくら	東洋大学体育会サッカー部女子部	6	DF	薄井 翼	浦和レッドダイヤモンズユース	6	MF	岩下 侑愛	浦和レッドダイヤモンズレディースジュニアユース
8	MF	北岡梨愛里	東洋大学体育会サッカー部女子部	7	DF	高橋 温郎	浦和レッドダイヤモンズユース	7	MF	村松 葉帆	浦和レッドダイヤモンズレディースジュニアユース
9	DF	石塚木乃葉	東洋大学体育会サッカー部女子部	8	MF	小川 直澄	浦和レッドダイヤモンズユース	9	MF	石川 明佳	ちふれASエルフェン埼玉マリU18
10	MF	田中 結衣	東洋大学体育会サッカー部女子部	9	FW	井部 結斗	FC東京 U-18	10	FW	宮島加奈絵	川口市立高等学校女子サッカー部
11	FW	加藤満久花	東洋大学体育会サッカー部女子部	10	MF	神田 泰斗	大宮アルディージャU18	11	FW	八木沼陽毬	ちふれASエルフェン埼玉マリU18
12	GK	徳山 筒子	東洋大学体育会サッカー部女子部	11	FW	中村虎太郎	浦和レッドダイヤモンズユース	12	MF	内山わか菜	大宮アルディージャ VENTUS U18
13	FW	山崎 綾乃	東洋大学体育会サッカー部女子部	12	GK	服部 瑞希	昌平高等学校	13	FW	平山 優陽	浦和レッドダイヤモンズレディースユース
14	MF	清水 優風	東洋大学体育会サッカー部女子部	13	FW	中島 大翔	大宮アルディージャU18	14	FW	高橋 佑奈	浦和レッドダイヤモンズレディースユース
15	MF	平原 花珠	東洋大学体育会サッカー部女子部	14	MF	飯島 碧大	昌平高等学校	15	MF	宮野 咲希	浦和レッドダイヤモンズレディースジュニアユース
16	MF	森本 陽菜	東洋大学体育会サッカー部女子部	15	DF	三上 蓮恩	細田学園高等学校	16	GK	澤浦 花	ちふれASエルフェン埼玉マリU18
20	FW	小林莉々子	東洋大学体育会サッカー部女子部	16	DF	木寺 優直	大宮アルディージャU18				

### ■成年女子

8月10日 昭和町押原公園人工芝

【1回戦】 埼玉県 2 - 1 茨城県

8月11日 昭和町押原公園天然芝

【代表決定戦】 埼玉県 3 - 0 山梨県



■少年男子

8月11日 蕨崎市中央公園陸上競技場

【代表決定戦】 埼玉県 0-0 千葉県  
(5PK4)



■少年女子

8月18日 昭和町押原公園人工芝

【代表決定戦】 埼玉県 0-0 神奈川県  
(4PK3)



## 審判委員会より

### ユース審判活動報告

8/17(土)に開催された大宮アルディージャとツエーゲン金沢の前座試合にて、「NTTドコモ presents 第17回大宮アルディージャ ORANGE! HAPPY!! SMILE CUP!!!」(埼玉県知的障がい者サッカー大会)の決勝戦が行われました(FC ASSISTと桜高等学園が対戦し、PK戦でFC ASSISTが優勝しました。おめでとうございます)。

毎年、審判アカデミーのメンバーが担当させていただいておりますが、今回はユース審判を中心に担当してもらいました。短い時間でしたが、素晴らしい競技場で観客までいる中でやれたことは、彼らにとって貴重な経験だったと思います。ありがとうございました。

(県審判委員会育成部会/木村康弘【県立入間向阳高校】)

#### 決勝を務めた審判団

主審：酒井星南 (3級・高2)

副審：小林篤生 (3級・大2)・櫻井統麻 (4級・高2)

4th：長島 駿 (4級・高2)

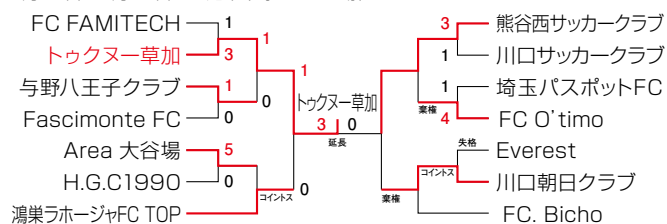


## 大会記録 ● 県内大会

### 1種

#### 第31回全国クラブチームサッカー選手権大会埼玉県大会

5月12日～6月16日 上尾市平塚サッカー場他



※優勝したトウクスー草加は関東大会に出場

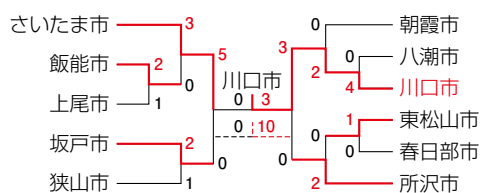


優勝 西武台新座

### 自治体

#### 第50回全国自治体職員サッカー選手権大会埼玉県予選大会

4月20日～5月25日 さいたま市堀崎公園サッカー場他



※優勝した川口市役所と準優勝のさいたま市役所は、南関東予選会に出場

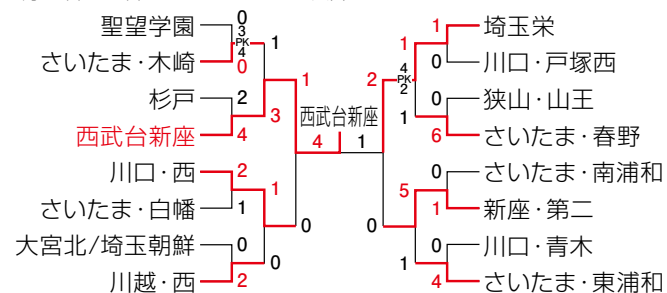


準優勝 埼玉栄

### 3種 中体連

#### 令和6年度学校総合体育大会中学校サッカーの部

7月20日～29日 NACK5 スタジアム大宮



※優勝した西武台新座と準優勝の埼玉栄は関東大会に出場



決勝 西武台新座 vs 埼玉栄

クラブ

第39回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会・埼玉県予選

4月6日～5月11日 県内各地

●代表決定戦

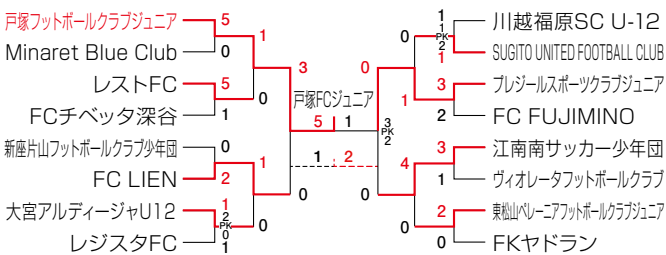
- 第1代表 ALEX 0-1 武南ジュニア
- 第2代表 L-BLOOM 1-2 カムイ
- 第3代表 HAN FC 1-2 JOGADOR
- 第4代表 クマガヤSC 0-1 三郷 Jr.
- 第5代表 東松山ペレニア 2-1 BOCA HANNO
- 第6代表 坂戸ディプロマツ 2-1 ファルカオ FC 久喜
- 第7代表 FC Gois 1-2 アスレンテ加須
- 第8代表 レジェンド熊谷 0-4 AC アスミ

※各代表は関東大会に出場

4種

第48回関東U-12サッカー大会埼玉県大会

6月16～23日 埼玉スタジアム第3グラウンド他



※優勝は戸塚FCジュニア。上位3チームは関東大会に出場

第22回埼玉県U12ガールズカップ 決勝トーナメント

7月7日 SFAフットボールセンター



女子

2024年度第46回皇后杯JFA全日本女子サッカー選手権大会埼玉県予選

7月7日～21日 埼玉スタジアム第2グラウンド他



※優勝した東京国際大学は関東予選に出場



優勝 東京国際大学

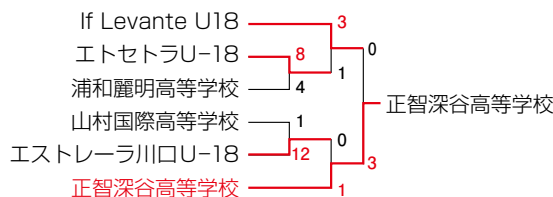


決勝 東京国際大学 vs 武蔵丘短期大学シエンシア

フットサル

JFA第11回全日本U-18フットサル選手権大会埼玉県大会

5月12日～26日 宮代総合体育館他



大会記録 ● 県外大会

1種 社会人

第60回全国社会人サッカー選手権大会 関東予選

6月2日～16日 関東各地

- 1回戦 TIU 0-0 東京蹴球団 (4PK3)
- 2回戦 VONDS 市原FC 7-0 与野蹴魂会
- 東京ユナイテッドFC 2-1 東京国際大学FCドリームス
- アヴェントゥーラ川口 3-0 エスプランサ SC
- ジョイフル本田つくばFC 2-0 TIU
- 東京国際大学FC 5-0 R.F.C Tokyo
- COEDO KAWAGOE FC 0-1 東京 23FC

●代表決定戦

- 東京ユナイテッドFC 2-0 アヴェントゥーラ川口
- 東京国際大学FC 1-1 エリース東京FC (2PK4)

第31回全国クラブチームサッカー選手権関東大会

8月24日～31日 押原公園サッカー場他

- 1回戦 鎌倉インターナショナルSC 1-1 トクヌー草加 (4PK5)
- 準決勝 FC BAJELVO 那須烏山 0-5 トクヌー草加
- 決勝 古河シティFC 1-0 トクヌー草加

※トクヌー草加は準優勝。優勝は古河シティFC

自治体

第50回全国自治体職員サッカー選手権大会南関東予選会

6月8日～10日 秋葉台公園球技場(神奈川県)他

- 1回戦 川口市役所 2-3 平塚市役所
- 習志野市役所 5-0 さいたま市役所
- 5位決定戦 川口市役所 0-3 鎌倉市役所
- さいたま市役所 2-0 柏市役所
- 鎌倉市役所 0-0 さいたま市役所 (6PK5)

2種 高体連

令和6年度全国高等学校定時制通信制体育大会第34回サッカー大会

8月3日～6日 IAIスタジアム日本平他

- 1回戦 長尾谷(大阪1) 1-0 狭山緑陽(埼玉3)
- 日々輝学園(埼玉2) 0-1 日々輝学園横浜(神奈川2)
- 大宮中央(合同・埼玉1) 2-0 桃谷(大阪2)
- 2回戦 浜松大平台(静岡2) 0-5 大宮中央

準々決勝 大宮中央 1 - 1 博多青松  
(2PK1)  
準決勝 相模向陽館(神奈川) 3 - 0 大宮中央  
※優勝は星槎国際立川(東京 1)

### クラブ

#### 第48回日本クラブユースサッカー選手権(U-18)大会

7月22日~31日 味の素フィールド西が丘他

##### ●グループステージ

###### Aグループ

大宮アルディージャU18 0 - 0 ファジアーノ岡山U-18  
大宮アルディージャU18 0 - 0 アルビレックス新潟U-18  
大宮アルディージャU18 2 - 1 ジュビロ磐田U-18

※大宮アルディージャU18はグループ1位

###### Gグループ

浦和レッズユース 1 - 1 AC長野パルセイロU-18  
浦和レッズユース 3 - 0 V・ファーレン長崎U-18

北海道コンサドーレ札幌U-18 0 - 3 浦和レッズユース

※浦和レッズユースはグループ1位

##### ●ノックアウトステージ

###### 準々決勝

大宮アルディージャU18 0 - 4 川崎フロンターレU-18  
浦和レッズユース 0 - 1 ガンバ大阪ユース

※優勝はガンバ大阪ユース

### 3種 中体連

#### 令和6年度第55回関東中学校サッカー大会

8月7日~9日 NACK5スタジアム大宮他

1回戦 西武台新座中学校 1 - 0 千葉市立蘇我中学校  
桐生大学附属中学校 1 - 0 埼玉栄中学校

準々決勝 藤沢市立鶴沼中学校 1 - 2 西武台新座中学校

準決勝 駒場東邦中学校(東京) 0 - 0 西武台新座中学校  
(8PK7)

※優勝は修徳。西武台新座は第4代表として本大会に出場



西武台新座中学校



埼玉栄中学校



表彰式 西武台新座中



準決勝 駒場東邦中 vs 西武台新座中



1回戦 西武台新座中 vs 千葉市立蘇我中



1回戦 埼玉栄中 vs 桐生大学附属中

#### 令和6年度全国中学校体育大会 第55回全国中学校サッカー大会

8月18日~23日 金沢ゴーゴーカレースタジアム他

1回戦 西武台新座中学校 2 - 0 生駒市立光明中学校

2回戦 暁星国際中学校 0 - 1 西武台新座中学校

準々決勝 浜松開誠館中学校 0 - 1 西武台新座中学校

準決勝 青森山田中学校 7 - 0 西武台新座中学校

※優勝は神村学園中等部

クラブ

第30回関東クラブユースサッカー選手権(U-15)大会 兼 第39回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会・関東予選大会

6月1日~30日 関東各地

1回戦	アスレンテ KAZO	1-2	Consorte
	東松山ペレニア	1-1	町田ゼルビア
		(4PK2)	
	FC Kanaloa	1-1	坂戸ディプロマツ
		(4PK5)	
	A.C. アスミ	3-1	栃木 SC
	EC JOGADOR	0-3	湘南ベルマーレ U-15WEST
	三郷 JrYouth FC	1-3	STFC
2回戦	坂戸ディプロマツ	0-4	東京ヴェルディ
	浦和レッズ	2-0	クラッキス松戸
	大宮アルディージャ	3-0	横須賀シーガルズ FC
	クラブ与野	1-0	ATLETICO 君津
	A.C. アスミ	1-2	横浜 FC
	東松山ペレニア	0-1	GRANDE FC
	1FC 川越水上公園	1-2	プリオベッカ浦安
	武南 Jr	1-2	ともぞう SC
	FC LAVIDA	3-1	FC 川崎 CHAMP JY
3回戦	大宮アルディージャ	2-0	Wings
	クラブ与野	1-1	横河武蔵野 FC
		(6PK7)	
	浦和レッズ	0-0	FC 東京むさし
		(0PK3)	
	FC LAVIDA	3-1	前橋ジュニア
4回戦	大宮アルディージャ	1-2	FC 東京
	FC LAVIDA	3-1	横浜 FC
	横浜 F マリノス	2-0	GRANDE FC
準々決勝	FC LAVIDA	1-0	東京ヴェルディ
準決勝	横浜 F マリノス	1-2	FC LAVIDA
決勝	FC 東京むさし	1-1	FC LAVIDA
		(2PK4)	

※優勝は FC LAVIDA。大宮アルディージャ(13位)、GRANDE FC(15位)も本大会へ出場

第39回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会

8月10日~20日 札幌サッカーアミューズメントパーク他

●グループステージ

Aグループ

柏レイソル U-15	1-1	大宮アルディージャ U15
北海道コンサドーレ札幌 U-15	1-1	大宮アルディージャ U15
大分トリニータ U-15	5-3	大宮アルディージャ U15

※大宮アルディージャ U15 はグループ 3 位

Fグループ

FC LAVIDA	5-0	モンテディオ山形ジュニアユース庄内
FC LAVIDA	3-0	FC. フェルボール愛知
FC LAVIDA	3-0	サンフレッチェ広島 F.C ジュニアユース

※ FC LAVIDA はグループ 1 位

Lグループ

ファジアーノ岡山 U-15	3-2	GRANDE FC
フォルツァ'02	2-0	GRANDE FC
サガン鳥栖 U-15	0-0	GRANDE FC

※ GRANDE FC はグループ 3 位

●ノックアウトステージ

ラウンド 32 FC LAVIDA 2-0 前橋 FC

ラウンド 16

ロアッソ熊本ジュニアユース 0-3 FC LAVIDA

準々決勝

FC 東京 U-15 むさし 3-1 FC LAVIDA

※優勝は川崎フロンターレ U-15 生田

女子

第6回日本クラブユース女子サッカー大会(U-18)2024 関東予選

4月29日~6月26日 関東各地

●1次リーグ

グループA

大宮アルディージャ VENTUS U18 3-4 茨城フットボールアカデミー

SHIBUYA ARTISTA FCユース 0-10 大宮アルディージャ VENTUS U18

※大宮アルディージャ VENTUS U18 はグループ 2 位  
グループB

ザスパクサツ群馬レディース U-18 1-3 1FC 川越水上公園メニーナ U-18  
1FC 川越水上公園メニーナ U-18 3-1 大和シルフィード U-18

※1FC 川越水上公園メニーナ U-18 はグループ 1 位となり、第 5 代表決定トーナメントへ

●2次リーグ

グループY

三菱重工浦和レッズレディースユース 1-1 湘南ベルマーレ U-18 ガールズ

日テレ・東京ヴェルディメニーナ 2-1 三菱重工浦和レッズレディースユース

※三菱重工浦和レッズレディースユースはグループ 3 位となり、第 5 代表決定トーナメントへ

グループZ

ジェフ市原・千葉レディース U-18 5-1 ちふれ AS エルフェン埼玉マリ U-18

ちふれ AS エルフェン埼玉マリ U-18 0-2 ノジマステラ神奈川相模原ドゥエ

※ちふれ AS エルフェン埼玉マリ U-18 はグループ 3 位となり、第 6 代表決定トーナメントへ

●第5代表決定トーナメント

茨城フットボールアカデミー 0-2 1FC 川越水上公園メニーナ U-18

三菱重工浦和レッズレディースユース 4-0 1FC 川越水上公園メニーナ U-18

●第6代表決定トーナメント

ちふれ AS エルフェン埼玉マリ U-18 1-0 スフィーダ世田谷 FCユース

※上位 6 チームが本大会に出場

●第11位タイ決定トーナメント

大宮アルディージャ VENTUS U18 9-0 大和シルフィード U-18

大宮アルディージャ VENTUS U18 3-0 横須賀シーガルズ JOY

シニア

JFA 第23回全日本 0-50 サッカー大会関東地区予選会

4月27,28日 神奈川県立スポーツセンター 球技場2 他

Aブロック

大泉 FC50 0-0 クマガヤ SC シニア 0-50

クマガヤ SC シニア 0-50 1-0 FC 武蔵ユナイテッド 50

千葉四十雀 SC50 2-0 クマガヤ SC シニア 0-50

横浜シニア 50 0-2 クマガヤ SC シニア 0-50

※クマガヤ SC シニア 0-50 はブロック 3 位。本大会出場は横浜シニア 50 と T・ドリームス 50

JFA 第12回全日本 0-40 サッカー大会関東地区予選会

6月1,2日 SFAフットボールセンター

Aブロック SOL TODA 0-2 エリース東京シニア 40

FC 船橋 0-2 SOL TODA

SOL TODA 0-1 山梨マスターズ

鹿島さわやか FC.Legend - SOL TODA

雷による試合中止

※消化試合数で除算した割合で算出した結果、SOL TODA はブロック 5 位

Bブロック

FC 青山オーバー・フォーティ 3-1 FC. 西武台

FC. 西武台 1-1 西湘 Wings.FC

館林シニア 40SC 0-1 FC. 西武台

雷による後半中止

FC. 西武台 - ヴェルフエシニア 40

雷による試合中止

※消化試合数で除算した割合で算出した結果、FC. 西武台はブロック 1 位

FC. 西武台を含む各ブロック上位 2 チームが本大会に出場

JFA 第24回全日本 0-60 サッカー大会

6月8日~10日 TDK秋田総合スポーツセンター他

●1次ラウンド・グループB

埼玉シニア 60 4-0 羊ヶ丘オールドキッカーズ 2002/OV60

大分県選抜 1-1 埼玉シニア 60

広島県シニア 60 合同チーム 1-2 埼玉シニア 60

※埼玉シニア 60 はグループ 1 位

準決勝 T Dreams-60 2-0 埼玉シニア 60

※優勝は T Dreams-60 (東京都)

## フットサル

### 第40回全国選抜フットサル大会関東大会

5月25、26日 栃木県立県北体育館

1回戦 埼玉県選抜 6-3 茨城県選抜

準決勝 埼玉県選抜 1-2 東京都選抜

※優勝は神奈川県選抜。準優勝の東京都選抜と共に本大会に出場

### JFA 第11回全日本U-18フットサル選手権大会関東大会

6月15、16日 小瀬スポーツ公園体育館

#### ●1次リーグ・Aブロック

フウガドールすみだファルコンズ 6-0 正智深谷高校

正智深谷高校 14-2 高崎経済大附属高校

※正智深谷高校はブロック2位。優勝したフウガドールすみだファルコンズを含む上位3チームが本大会に出場

### 第20回全日本大学フットサル大会関東大会

6月22、23日 アイルアリーナ ウイングハット春日部

1回戦

城西大学体育会サッカー部 6-2 群馬大学フットサル部

準決勝

多摩大学フットサル部 2-3 城西大学体育会サッカー部

決勝

城西大学体育会サッカー部 5-1 順天堂大学フットサル部 GAZIL/jfc

※優勝した城西大学体育会サッカー部と準優勝の順天堂大学フットサル部 GAZIL/jfc は本大会に出場

### JFAバーモントカップ第34回全日本U-12フットサル選手権大会

8月16日~18日 武蔵野の森総合スポーツプラザ

#### ●1次ラウンド

グループK

戸塚FCジュニア 2-4 アミティエ SC 草津

FC アンジョイ (鹿児島) 2-5 戸塚FCジュニア

ブラウブリッツ秋田 U-12 0-12 戸塚FCジュニア

※戸塚FCジュニアはグループ2位

#### ●決勝ラウンド

ラウンド16

イソSC (栃木県) 2-5 戸塚FCジュニア

準々決勝

ヴィッセル神戸 U-12 3-4 戸塚FCジュニア

準決勝

戸塚FCジュニア 8-2 サイレコ・エスペランサ熊本

決勝

静岡ジュニアFC・ピヴォ 2-8 戸塚FCジュニア

※戸塚FCジュニアは初出場初優勝



## インフォメーション

### 技術委員会より

#### 講習会・研修会の変更について

##### ●B級ワークショップ受講条件変更

JFAの2024年度B級受講条件は「2024年4月1日現在、満20歳以上である」となっている。つまり、来年度JFAのB級受講条件は「2025年4月1日現在、満20歳以上である」になる予定。

これに準拠し、現在のB級ワークショップ受講条件を11月4日分より「2025年4月1日に満20歳以上」と変更する。

※2025年度埼玉FA B級コーチ養成講習会に申込希望の方は、事前にSFA B-License workshopへの参加が必要です。1回以上の受講により、2025年度B級コーチ養成講習会への申込みが可能となります。

##### ●GK L-1 講習会開催日変更

2025年1月11日(土)、12日(日)、25日(土)、26日(日)

※赤字が変更点。1月18日、19日が「JFAフットボールカンファレンス@熊本」開催のため。場所はSFAフットボールセンターで変更なし。

##### ●リフレッシュ研修会開催日変更

1月11日(土) → 1月13日(月祝)

場所	日程	コース	Point	実施時間(予定)
FBC①	6月9日(日)	B	20	1000~1800
FBC②	7月28日(日)	C	10	900~1600
FBC③	11月23日(土)	A	20	1200~2000
FBC④	12月14日(土)	D	20	900~1800
FBC⑤	12月15日(日)	B	20	900~1800
FBC⑥	1月13日(月・祝)	A	20	900~1800
FBC⑦	2月1日(土)	D	20	900~1800
FBC⑧	3月16日(日)	C	10	1000~1800

##### ●D級コーチ指導者養成講習会開催日変更

1月12日(日) → 1月13日(月祝)

##### ●SFA 技術委員会 Instagram 開設

7月17日、Facebookに続き、Instagramを開設しました。少しずつではありますが、指導者養成、トレセンなど各事業を画像、動画で紹介していきます。皆様のご理解をいただきたいと思っていますので、ぜひ、フォローをお願いいたします。

[https://www.instagram.com/saitamafa\\_tech2024/?hl=ja](https://www.instagram.com/saitamafa_tech2024/?hl=ja)

※技術委員会ホームページ(<https://sfa-tec.jimdofree.com/>)のトップページからもアクセスできます。



福島県で固定開催となって初の全国高校総体で、昌平高校が初優勝を飾りました。埼玉県代表の優勝は昭和48年(1973年)の児玉高校以来、実に51年ぶりのこと。今回、監督就任1年目にして栄冠を手繰り寄せた昌平高校・玉田圭司監督にじっくりとお話を聞くことができました。さらにバーモントカップで県代表が2連覇、「国体」から「国スポ」となった佐賀大会に埼玉県代表が全カテゴリーで出場を決めるなど、嬉しいニュースを集約することができました。ほかにもこの号で掲載できなかった好結果は早急に次号で紹介させていただきます。シーズンは終盤戦、各試合会場で熱いご声援をお願いいたします!(藤田)

編集  
後記